

## 世界のブドウ市場の現状

FreshPlaza 2023年10月17日

バンガードインターナショナル社は、主要な産地での一連の予期しない気象現象により、世界のブドウ市場は現在大きく容容していると報告している。これらの出来事は、一部の地域での顕著な減収につながり、それは全体的な供給に影響し、その結果市場価格に影響を与えた。ペルー北部、米国カリフォルニア州、チリ及び南アフリカの出荷シーズンと、それらが世界のブドウ市場に与えた影響を振り返りながら、ブドウ市場の状況について見ていく。

**カリフォルニア州:** 主要なブドウ産地である米国カリフォルニア州は、総収穫量が50%減という驚異的な減収に直面する可能性がある。この大幅な減少は、季節外れの暑さ、山火事、熱帯低気圧ヒラリーがもたらした気象条件など、複数の要因の組み合わせに起因している。これらの有害な出来事の影響は壊滅的であり、この地域がすでに直面していた問題を悪化させた。その結果としてのカリフォルニア州のブドウ生産量の40～50%の減少は、世界市場全体で感じられたドミノ現象の最初の1つとなった。

**チリ:** チリは嵐を比較的うまく乗り越えたようで、ブドウは総じて問題ないように見える。多少の雨は降っていたが、作物への影響は最小限に留まると予想されている。チリは世界のブドウ輸出において極めて重要な役割を果たしているため、これは市場にとって前向きなニュースである。ただし、気象パターンの変化が続いているため、状況を注意深く監視することが依然として重要である。

**南アフリカ:** 南アフリカのブドウ市場では現在良好な収穫量が見込まれており、望ましい状況にある。幸いなことに、豪雨がこの地域の生産に大きな影響を与えることはないと思込まれる。この南アフリカの供給の安定性は、他の主要産地が直面する課題とは良い意味で対照的である。

**ペルー北部:** 世界のブドウ市場の重要なプレーヤーであるペルー北部は、収穫量が20～25%減少する大幅な後退に直面した。大雨、洪水等のシーズン初期の悪天候は、ブドウの出荷にとって不利な条件を生み出した。これにより、出荷量の減少とカビの問題が発生し、スイートグローブ品種の品質に影響を及ぼした。その結果、900万箱以上の大幅な減収となり、世界のブドウ供給の重荷となっている。

エルニーニョ現象とラニーニャ現象の頻度の高まりは、世界中でブドウ生産に間違いなく影響を及ぼしている。これらの気候現象は、生育条件の予測を難しくし、生産者と出荷先が収量を正確に予測することを困難にし、その結果として需要が供給を大幅に上回ることとなる。

### (関連記事)ペルー産ブドウは出荷は早い但量は少ない見込み

FreshPlaza 2023年10月17日

ブラジルとペルーの新しいブドウシーズンが少し前に始まり、最初の荷がヨーロッパ市場に到着している。輸入業者のホルネ・ファン・デ・クルンデルト氏は、「ペルー産のブドウが昨年より2～3週間も早いことは特に注目に値する。統計によると、(ヨーロッパへの)ブドウの輸入量が多いことが示されているが、それはシーズン全体には当てはまらないだろう。全体的に、また特にペルー産については大幅な減少が見込まれる」と言う。

このことは主にペルーの北部を特に激しく襲ったエルニーニョ現象に関係している。同氏は、「ペルー産のブドウに対する米国からの需要も非常に高い。ハリケーンヒラリーがカリフォルニア州のブドウにかなりの被害を与えたため、ペルー産ブドウの需要が大幅に増えている。したがって、ペルーの生産者らはより有利な立場におり、価格は10箱(500g/箱)当たり19～21ユーロとなっている」と話す。

「ヨーロッパ産のブドウの価格も堅調だが、一部の例外を除いて品質はかなり低い。収穫は早く終わり、今後数週間で売り手市場になるはずである。それは通常種無し白ブドウから始まり、赤ブドウが続く。一方、ナミビアと南アフリカのブドウシーズンの見通しは素晴らしいようだ。今後しばらくの間にまだ多くのことが起こる可能性があるが、これらの国の収穫量と品質の見通しは有望である」と同氏は結論付ける。